大衆日報
大衆日報社
銚子市春日町3218-1
電話 0479(25)0030
FAX 0479(25)1100
購読料 1カ月 1,800円
郵送 1カ月 2,700円

災害用備蓄倉庫『蔵』竣工式

建主はガラスリソーシング(株)

企業として安全・安心に貢献！

伊藤会長、赤坂社長らの強い思いが形に!!

『ただいまガラスリソーシング㈱の伊藤憲一会長と『防災協定』を締結させていただきました。本当にありがとうございました。地域防災力に大きく貢献する施設であり、災害発生時の避難施設として大変心強く感じております』

とあいさつするのは越川信一市長だ。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では多くの尊い命が失われ、また、津波による甚大な被害、福島第一原発の事故など日本は大打撃を受けた。ガラスリソーシング㈱（伊藤憲一会長、赤坂社長／銚子市春日町）は、この惨状を重いかつ教訓として『企業として大震災発生時に被災地の食料等物資を備蓄する和の絆たっぷりの施設完成し、3月19日（土）、竣工イベントを開催した。

銚子市とガラスリソーシング㈱の間で災害時における防災備蓄物資の提供協力等に関する協定を締結。左は伊藤憲一会長、右は越川信一市長

銚子市と災害協定を締結

開会にあたり、まずは北へ向かって黙祷を捧げ司会の柏熊武彦取締役が『銚子市と同社の間で「災害時における防災備蓄物資の提供協力等に関する協定」が締結されたこと』を報告。越川市長からガラスリソーシング㈱に感謝状が贈呈され、越川市長は次のように感謝の言葉を述べた。

▼越川信一市長

ガラスリソーシング㈱の伊藤会長は「大震災以降、銚子市民を守る施設を民間主導で作りたかったんだ」と話しておられました。この災害用備蓄倉庫『蔵』の建設は、まさに『民間政治・だから思い』です。『民間政治』は北へ向かって黙祷を捧げ自分たちの地域は自分たちで守る、自分たちの地域の問題は自分たちで良くしていくんだという心意気・覚悟が感じられます。自助・共助のキッチン、新ストーブも設けられています。この災害用備蓄倉庫の建設を『蔵』で、民間政治のお手本です。

防災用品の他、自家用発電機、軽油タンクも完備。2階は地域や町内の方がイザという時逃げられるスペースになっています。厨房器具に対応したシャワートイレやキッチン、新ストーブも設けられています。この災害用備蓄倉庫の建設を銚子市民はじめ、地域の皆さんも「自分たちにできることを考えよう」ということで勉強会をスタートしたと伺いました。民間政治のうねりが、この銚子に広がっていると感じます。ガラスリソーシング様の備蓄倉庫を一つのモデルとしながら、行政も民間の皆さんと連携しながら安全・安心なまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

右から防衛大学校の佐藤紘志名誉教授、松岡明夫・銚子信金理事長、宮内智・商工会議所会頭、信田光保県議、石毛之行県議、越川信一市長

伊藤憲一会長、赤坂社長をはじめガラスリソーシング様のますますご発展と社員の皆様のご多幸を謹念致します。

地域のために役立ちたいと伊藤憲一会長

ガラスリソーシング㈱を代表して伊藤憲一会長は、

「我々の思いは地域のために役立ちたいということ。5年前の大震災から少しずつ備蓄を始め、トラヤさんなどの支援をいただきながら『倉庫を作ろう』と思っていたのですが、やはり大切な物資を保管するには日本伝統の『蔵』だろうと考え東和建設さんへ話をし、その思いを銚子信金清川町支店の伊藤支店長に話し、三位一体でこの蔵が出来上がりました。本当にありがとうございます」

とあいさつ。銚子信用金庫清川町支店の伊藤和夫支店長は、

「私は昨年4月から清川町支店に着任し、日頃訪問している中で伊藤会長の『地域に貢献したい』という思いを伺い融資を決定しました。東和建設さんの『伝統の蔵』という形で現したい」ということで完成しました」と話し、東和建設㈱の大久保隆史専務は、

「今回このお話をいただき、会長をはじめガラスリソーシング様の強い思いを感じ、『思いを形に』ということで精一杯取り組ませていただきました。このような工事をやらせていただき、ありがとうございました」

と感無量の面持ちで語り施工を行なった東和建設㈱の鈴木孝一社長には次の感謝状が贈呈された。

▼東和建設㈱と銚子信用金庫清川町支店に感謝を表する伊藤憲一会長（中央）。左は東和建設の大久保隆史専務、右は信金清川町支店の伊藤和夫支店長

▼東和建設㈱の鈴木孝一社長へ伊藤ガラスリソーシング会長が感謝状を贈呈

▼竣工イベントの司会を柏熊武彦取締役が担当

▼竣工式典の前に北へ向かって黙祷を捧げる

▼銚子市とガラスリソーシング㈱の伊藤憲一会長、赤坂社長／銚子市春日町）

▼越川信一市長

▼竣工式では石毛之行県議、信田光保県議、宮内智・銚子商工会議所会頭、松岡明夫・銚子信用金庫理事長らが祝辞。防衛大学校の佐藤紘志名誉教授は、

「赤坂社長とは地域防災フォーラム等で親交があり、お祝いに駆けつけました。この会社は環境に優しく、若手企業家30名ほどの勉強会も行なっている素晴しい企業。日本の和の心を生かした災害用備蓄倉庫の完成誠におめでとうございます」

とお祝いした。

【蔵の建設趣旨】

災害時には地域と共に歩む企業として、公的支援が届くまでの間、社員及びその家族並びに近隣地域の住民の皆さんに『蔵』を開放し、避難者の受け入れ、備蓄された食料・生活物資を提供していくことも地域・社会貢献であると考えました。

大震災に限らず、台風等の風水害による災害が発生した際、倒壊した建物及び塀、倒木、土砂崩れ等で周辺道路が通行不能になった際、自治体だけの力では広範囲の被害に対し迅速な対応は不可能です。自治体と事前協力協定を結び、民間の豊富な資材や活力で道路上の瓦礫物等の撤去作業に協力し、一刻も早く生活道路の通行確保が図れるよう今後、自治体と企業間で検討を進めていかなければならないと考えます。

以上のことを踏まえ、災害発生時に企業がどのような災害用備蓄品を備え、効率よく対象者に提供できるか。また、企業自らが災害に伴う周辺道路の瓦礫物を速やかに撤去し、生活道路の通行をいかに確保していくか。行政機関等と事前に研究し、概念的なガイドラインを作成しておくことが必要です。今出来ることの一つとして弊社は災害用備蓄倉庫『蔵』を建設し、非常用食料、災害時に必要な生活物資等を災害備蓄品として備蓄しました。

蔵の建設会社に建設趣旨に賛同した銚子市を海負う次世代の若手企業家30名が集まり、防災・減災について勉強会を開き意見交換致しました。

今後、研鑽を積み上げた若手の意見が、各企業が災害時の災害備蓄を検討する際の参考にもなり、また企業からの求めに応じて適切に助言することができるよう、この施設を機縁する場として活用されることを望んでおります。

▼災害用備蓄倉庫『蔵』の概要

▽場所　銚子市春日町8-19-1（818-1）
▽建築構造　鉄骨造り2階
▽建築面積　129・46㎡（39・16坪）
▽延床面積　216㎡（65・34坪）
［内訳］
・1階　108㎡（32・67坪）備蓄倉庫
・2階　108㎡（32・67坪）多目的ホール
▽竣工年月日　平成28年2月
▽施設の用途　災害用備蓄品の備蓄及び災害時の一時避難場所
▽建物デザインについて建物は日本古来の蔵をイメージし、色は上部を白と下部を黒の鉄骨壁を基調に建設

銚子市の避難スペースを見学する佐藤紘志大学校名誉教授（右）

報道陣からのインタビューに答えるガラスリソーシング様の伊藤憲一会長（右）と高橋専務

災害時の炊き出し訓練を行なう㈱勘兵衛の藤ケ崎勘兵衛社長と貴之専務ら。モットーは「食の安全安心を消費者にお届けする」です

佐藤紘志・防衛大学校名誉教授もお祝いに！

食料や水などの備蓄スペースを見学する銚子市社会福祉協議会の伊東好雄会長（銚子市町内会連合協議会長）ら